

## 東日本大震災津波伝承館運営協議会の開催結果（概要）

### 1 開催概要

- (1) 日時 令和2年11月18日(水) 13:30~15:00
- (2) 場所 国営追悼・祈念施設管理棟（道の駅高田松原）セミナールーム
- (3) 出席者 委員10名（1名欠席）（別紙名簿のとおり）
- (4) 審議事項
  - ア 令和2年度東日本大震災津波伝承館の上半期の実績について
  - イ 令和3年度東日本大震災津波伝承館の取組の方向性について

### 2 審議概要

各委員の発言要旨は次のとおり。

#### ○ 柴山 明寛委員（東北大学災害科学国際研究所准教授）

- ・ 花巻空港からの発着便は、名古屋のほか、北海道、大阪、福岡便もあるので、これらの地域もターゲットにして観光誘致に取り組んではどうか。
- ・ 来年度はオリンピックや国際学会があるので、伝承館での学びの場を柱にして、陸前高田市や気仙沼市など近隣の市と連携した誘客活動を仕掛けてほしい。
- ・ 国際展開する際は必ずロゴが並ぶので、ロゴはあったほうがよい。

#### ○ 越野 修三委員（岩手大学地域防災研究センター客員教授）

- ・ 心の復興やコミュニティの再生など、ソフト面の復興を伝承館でも紹介してはどうか。
- ・ 他県の学校でも関心があると思うので、県内学校での津波防災教育の取組について紹介してもいいのではないか。

#### ○ 五味 壮平委員（岩手大学人文社会科学部教授）

- ・ 市のパークガイドと連携して、修学旅行で訪れた生徒達を連れて避難先の気仙小学校まで実際に歩いてみるとか、公園全体を使った取組をしてもいいのではないか。
- ・ 伝承館の展示は、1回来ただけでは全部見きれないことを積極的にPRしていけば、リピーターが増えると思う。
- ・ 来館者が地元の人と出会える機会があればいいと思うので、地元の市民協働グループの協力を得ながらトークライブをしてはどうか。

#### ○ 伊藤 雅人委員（一社・マルゴト陸前高田代表理事）

- ・ 震災当時陸前高田市に住んでいた人の中には、「伝承館は（津波の映像が）怖いから見たくない」という人もいるので、地元の方々が伝承館に足を運んでもらえるようにするにはどう調整していくのか課題である。
- ・ 教訓を伝承していくために、20代から40代の若い世代にこそ伝承館に足を運んでもらいたいので、その世代にどうアプローチしていくのか考えていかなければならない。
- ・ 近隣の観光協会が伝承館を知ること、伝承館を紹介することに繋がると思うので、

沿岸の観光協会を招いて伝承館を見学してもらってはどうか。

○ 千田 貴浩委員（岩手県立博物館副館長）

- ・ 伝承館での防災活動をPRすることで、関心を持った企業や地域の団体が防災学習のために伝承館に訪れ、これがきっかけとなって地域の防災活動が活発になっていくと思う。

○ 上田 幹也委員（公財・さんりく基金三陸DMOセンター長）

- ・ 旅行会社や岩手の三陸に興味を持った方からの問い合わせに応じてパンフレットを送付しているが、かなりの手応えを感じている。
- ・ 伝承館と他の施設をセットにして沿岸に来てもらえるよう、観光サイドとしても取り組んでいきたい。

○ 松村 敦子委員（元 赤崎中学校校長）

- ・ 地域の団体が伝承館を訪れることによって、今度は家族単位で伝承館を訪れることが期待されるので、地域の団体にこそ伝承館に来てもらうべきである。
- ・ 作詩家を招いて伝承館をテーマにした歌を作り、被災地の高校や中学校の生徒と一緒に歌を歌う取組を行うことで、子ども達への伝承に繋がると思う。
- ・ 沿岸には明治以降に建てられた石碑が数多くあるが、これらを紹介する企画展示をしてもいいと思う。

○ 南 正昭会長（岩手大学理工学部教授）

- ・ 伝承館の取組は広がる可能性を秘めているので、この協議会での記録をきちんと残して、マニュアルに縛られることなく、柔軟に取り組んでほしい。